

人が多かった。これも他から移植したものである。最近このコマクサ数十株が持ち去られたのは残念である。コマクサ園付近の主な植物は、ツガザクラ(花)、ガンコウラン、ミネズオウ(花)、コキンレイカ、コヨウラクツツジなどである。ここから駐車場に戻ったのは2時半頃であった。

時間が早かったので、尾台さんの案内で軽井沢の植物を観察することになった。大野さん(横浜市)は遠いので参加をとりやめ、11名が参加した。林床はやや暗く、湿気をおびていた。主な植物は、ミヤマウズラ、フデリンドウ、ヤマタバコ、ヒオウギ、

カルイザワテンナンショウ、コウライテンナンショウ、オニヒョウタンボク、ルイヨウボタンであった。特に数株のヤマタバコの雄大な姿と美しい黄色の花に魅せられ、感動した。ここで解散したが、今井先生は更に軽井沢植物園をみて帰られた。

この観察会を通して、会員の皆さんが植物に詳しく、多くの事を教えられ、私にとって非常に有意義であった。好犬に恵まれ、観察会が成功裡に終わったのも、案内をしていただいた柳沢さん、終始お世話になった中山・池田両先生のお蔭と感謝する次第であります。

〔植物ニュース〕 142. 日本産ヒダカソウ属新亜種

1989年9月、佐藤 謙・伊藤浩司両氏により「植物研究雑誌」64巻9号で、北海道の岨山からキリギシソウ(新称)がカラフトミヤマイチゲの新亜種として発表された。伊藤氏が1982年に、ヒダカソウとして発表した植物を詳細に調べ直した結果、ヒダカソウではなく、1935年にサハリンから記載されたカラフトミヤマイチゲ *C. sachalinense* の新亜種であるというのである。産地に基づいて、キリギシソウ *C. sachalinense* ssp. *kirigishiense* と命名された。次に両氏のヒダカソウ属の検索表を示す。

1. 花卉の長さは幅のおおむね 2 倍以上…………… 2
1. 花卉の長さは幅のおおむね 2 倍以下…………… 4
2. 根生葉の葉身は花時に長さ 1—2 cm 根生葉の頂葉の葉柄の長さは通常側葉の葉柄の長さと同長—2 倍長 …………… ヒダカソウ
2. 根生葉の葉身は花時に長さ 3—9 cm ; 根生葉の頂葉の葉柄の長さは通常側葉の葉柄の長さと同長—4 倍長…………… (カラフトミヤマイチゲ) 3
3. 花茎は花時に長さ 17—31 cm ; 1 花茎当たりの花数はおおむね 1—2 …………… キリギシソウ
3. 花茎は花時に長さ 23—36 cm ; 1 花茎当たりの花数はおおむね 2—3 …………… カラフトミヤマイチゲ
4. 花卉はおおむね円頭、長さ 8—12 mm, 幅 5—8 mm ; 葉は両面共に著しく白粉状…………… キタダケソウ
4. 花卉はおおむね円頭または鈍頭、長さ 12—15 mm, 幅 6—10 mm ; 葉は両面共白粉状にはならない…………… ウメザキサバノオ

既にこの両氏の論文を読まれた方は多いと思うが、北アルプスやハケ岳で新しい本属植物が発見されることを期待して、ここにご紹介する。

両氏の研究は、日本のヒダカソウ属を整理されたよい研究であるが、和名・学名共に、産地をあまりにもはっきり表しすぎて気になる。(豊国秀夫)

〔植物ニュース〕 143. シロバナヒオウギアヤメ

Iris setosa Pall. form. *albiflora* (Sugawara) Sugimoto 学生時代に志賀高原の植物に接していた。その当時、生標本を新聞紙にはさみ持ち帰っては、乾燥標本を作っていた。田の原湿原のヒオウギアヤメも同様にしていたが、根茎があまりに大きくて困り、下部は切り取り、生家の庭へ植えておいた。株はだんだんに増え、毎年美花を楽しませてくれた。

1989年6月4日、母に呼ばれて行ってみると1株が初めて白花を咲かせていた。白花の出た原因は、不明である。日本草木植物総検索誌(杉本1973)によると、シロバナヒオウギアヤメの産地はサハリン島のみである。

栽培地：長野県東筑摩郡四賀村会田新町

(横内 文人)

144. エゾウコギ *Acanthopanax senticosus* Harms

1989年10月29日、南佐久郡佐久町大日向で植生調査していたところ、スギ植林下に見なれないウコギ科の植物が見られた。植物体はまだ小さく高さ30cmほどで茎と葉には著しい細い刺があった。気にはなかったが、植物体が小さいこと、周囲を探してみたが1個体しか見られなかったため、個体の採集はせず写真を撮り、数少ない葉を1枚野帳の間に挿んできた。

発行されたばかりの「日本の野生植物」(木本Ⅱ, 平凡社)を見たところ、その特徴からエゾウコギであることがわかった。樺太、朝鮮、中国(北部、東北)、アムールに分布し、日本では北海道にのみ分布が知られているにすぎない。

どのようにしてここに生育したかは定かではないが、植物体が30cmと小さく、スギ林下で今後成長できるか見守っていきたい。

(吉沢 健、池田登志男)